

第2次宇都宮市国際化推進計画 概要版

第1章 計画策定にあたって

1 計画策定の趣旨

外国人住民の定住化が進む中、これまで以上に、外国人住民と日本人市民との相互理解の促進や外国人住民の生活環境の充実、外国人住民の地域社会への参画促進など、多文化共生社会の実現に向けた施策・事業を推進する必要がある。また、経済活動のグローバル化や高度情報化が進む中、市民主体の国際交流を促進するとともに、国際感覚を持つ人材を育成していく必要があることから、現行計画を改定する。

2 計画の位置づけ 宇都宮市総合計画基本計画の分野別計画

3 計画の期間 平成26年度から平成30年度までの5年間

第2章 国際化をめぐる現状と課題

1 現行計画の実績評価

(1) 誰もが暮らしやすい多文化共生の地域づくり

- 多文化共生ソーシャルコーディネーター制度の開始（H21）など多言語の相談体制の充実に取り組んできたが、相談事案の複雑化に対応するため、より一層の相談体制の充実が必要である。
- 身近な地域事業への外国人住民の参画促進の取組は、一部地域に限られ（H24：1件）、日本人と親しく行き来している外国人住民の割合は3割以下である（H20：10.4%→H25：26.4%）など、地域団体、ボランティア等と連携した取組など相互理解の促進や日本人市民への意識啓発、地域リーダーの育成なども必要である。

(2) 国際理解・国際交流のための環境づくり

- 国際理解講座の参加者数は増加している（H20:50名→H24:286名）が、「日本人と積極的に交流したい」と考える外国人住民の割合は横ばいであり（H20：23.6%→H25：23.7%）、相互に異文化や異なる習慣を理解するための交流機会の充実を図ることが必要である。
- 姉妹都市に青少年の派遣を実施している（H24:20名）が、さらなる相互の都市の発展につながる交流が必要である。また、市内の国際交流団体（H24：71団体）の活動は活発であるが、市民主体の交流を一層促進するため、担い手となる人材の育成や海外で活躍する市民との連携、市民団体への支援が必要である。

(3) 国際化にふさわしい都市機能の整備

- 行政情報の多言語化の推進に取り組んでいる（H20:18種類→H24:27種類）が、外国人住民の国及び地域は70になることから（H25.12現在）、より利用しやすく、分かりやすい情報提供が必要である。
- 多様な価値観を理解する講座実施などに取り組んでいるが、多文化共生社会の実現や国際理解・国際交流の促進の主役となる人材の育成がより一層重要である。

2 社会変化

(1) 本市における外国人住民の定住化傾向

- 永住者の資格を持つ外国人住民 H20:1,952人→H25:2,973人

(2) 国・県の動向

- H18：「多文化共生推進プラン」（国）
- H23：「新とちぎ国際化推進プラン」（県）
- H24:新しい在留管理制度の導入（在留期間の延長、外国人登録制度の廃止・住民基本台帳の改正により、外国人住民も日本人住民と同様に住民登録を行うなど）※H24：『外国人との共生社会』実現検討会議（内閣官房）中間的整理において、日本で生活する外国人との共生社会実現に向けた環境整備の推進を打ち出す。→外国人を一時的滞在者ではなく、地域社会の一員、生活者として受け入れていくことが必要であり、日本人市民の多文化共生や異文化に対する理解を促進し、市民の国際感覚を養うとともに、外国人住民の日本文化や習慣への理解を促進することが重要である。

(3) 協働化の進展

(4) 経済活動のグローバル化・高度情報化の進展

3 外国人住民意識調査（H25.5～6）

- 宇都宮市を暮らしやすいと考える割合は82.2%と増加している（H20:60.8%）。
- 日本語を「聞く」「話す」ことが困難な住民は3割（29.7%）を占める。相談窓口の認知度は上がっているものの4割に満たず（H20:10%→H25:36.4%）、市の行政サービスを知らない住民も4割近い（36.7%）。→コミュニケーション支援の一層の充実や、各種支援制度の認知度を上げるための取組が必要である。
- 日本語を「聞く」「話す」ことに問題がない住民も6割以上（64%）を占める。→より多くの人にわかりやすい「やさしい日本語」による情報提供などが必要である。
- 災害に備えた用意をしていない人は6割近い（57.8%）。災害が起きた時に希望する支援策は、「避難場所のわかりやすい表示」（53.6%）が最も多く、「大使館や領事館への連絡支援」や「援助策に関する情報」と続く。→外国人向け災害対策の充実やわかりやすい情報提供など、生活環境の一層の充実が必要である。

※外国人住民意識調査は定期的実施（計画策定時・中間年次）しているものの、意見交換会（H24:1回）など、ニーズを直接把握する機会も増やす必要がある。

4 課題のまとめ

(1) 誰もが暮らしやすい多文化共生の地域づくり

- 外国人住民との相互理解の促進（異文化理解講座の充実）や多文化共生に対する日本人市民への意識啓発の充実が必要
- 外国人住民のコミュニケーション支援、生活環境の一層の充実（相談体制の充実、災害対策の充実、やさしい日本語の普及など）が必要
- 地域団体、ボランティア等と連携した外国人住民の地域社会への参画促進や、外国人住民のニーズ把握が必要

(2) 国際理解・国際交流のための環境づくり

- 市民が国際感覚を養い、異文化を理解する機会の充実が必要
- 互恵性ある都市交流や、国際交流団体活動の一層の活性化に向けた支援が必要

(3) 国際化にふさわしい都市機能の充実

- 利用しやすく、分かりやすい行政情報の提供など、情報提供の充実が必要
- 国際化社会に対応できる人材の育成が必要

第3章 計画の基本的な考え方

1 基本理念

「多文化共生の地域社会と世界を視野に入れた国際都市の実現」

2 基本目標

(1) 基本目標Ⅰ 誰もが暮らしやすい多文化共生の地域づくり

成果指標：「多文化共生の推進が重要である」と考える市民の割合【H25 60.2% ⇒ H30 70%】

（基本目標が達成された姿）言葉や生活習慣、文化の違いを超えて相互に理解しあい、誰もが生活者、地域の一人として幸せに暮らせる多文化共生のまちが形成されています。

(2) 基本目標Ⅱ 国際理解・国際交流のための環境づくり

成果指標：「日本人と積極的に交流したい」と考える外国人住民の割合【H25 23.7% ⇒ H30 30%】

（基本目標が達成された姿）民間団体・地域・市民が主体的かつ積極的に外国人住民・海外と交流し、国際理解・国際交流活動が活発に進んでいます。

(3) 基本目標Ⅲ 国際化にふさわしい都市機能の充実

成果指標：「宇都宮市が暮らしやすい」と感じる外国人住民の割合【H25 82.2% ⇒ H30 85%】

（基本目標が達成された姿）国際都市としてのハード・ソフトが整い、まちづくりを担う人材があらゆる分野で活躍しているまちが実現しています。

第4章 施策の展開

基本目標Ⅰ 誰もが暮らしやすい多文化共生の地域づくり

施策の方向1 相互理解の促進

（重点事業）

- 異文化理解講座の充実

施策の方向2 外国人住民の生活環境の充実

（重点事業）

- 相談体制の充実
- 外国人向け災害対策の充実
- やさしい日本語の普及（新規）

施策の方向3 多文化共生の地域社会づくり

（重点事業）

- 多文化共生に関する意識啓発の充実
- 地域団体、ボランティア等との連携・支援（拡充）
- 地域事業への参加促進
- 地域リーダーの育成・支援

施策の方向4 多文化共生の仕組みづくり

（重点事業）

- 外国人住民意見交換会の実施

基本目標Ⅱ 国際理解・国際交流のための環境づくり

施策の方向1 国際理解の促進

（重点事業）

- 国際理解に関する講座の充実

施策の方向2 国際交流の促進

（重点事業）

- 海外で活躍する市民との連携

基本目標Ⅲ 国際化にふさわしい都市機能の充実

施策の方向1 都市環境の充実

（重点事業）

- 各種情報の多言語化の推進

施策の方向2 国際化社会に対応できる人材の育成

（重点事業）

- 国際感覚豊かな人材が活躍できる機会の充実（拡充）
- 国際感覚を持ち、世界的な視野で活躍できる人材の育成（拡充）

施策の方向3 国際協力の推進

第5章 計画の推進に向けて

（推進体制）

- 市民、市民団体、企業、関係機関との連携・協力
- 意見の反映
- （計画の進行管理）
- 庁内における国際化推進委員会で検証
- 外国人住民からの意見聴取の実施
- 中間年次における進捗状況の公表

【多文化共生社会とは】

国籍や民族などの異なる人々が互いの文化的違いを認め合い、地域社会の構成員として共に生き、共に支え合う社会を指す。

第2次宇都宮市国際化推進計画 体系図

基 本 目 標 (▽成果指標 現状値⇒目標値)	施 策 の 方 向 (▽活動指標 現状値⇒目標値)	取 り 組 む べ き 施 策	No.	重点	新規 拡充	主 要 な 事 業	行 政 の 取 組	主 な 対 象 市民外国人	関係団 体等との連携
I 誰もが暮らしやすい 多文化共生の地域づくり ▽「多文化共生の推進が 重要である」と考える市 民の割合 現状値(H25) 60. 2% ↓ 目標値(H30) 70%	1 相互理解の促進 ▽異文化理解講座の参加者数 (H24)277名⇒(H30) 330名	1 多文化共生意識の醸成	1			広報・普及啓発活動の充実	啓発用リーフレット作成等	○	○
	2 外国人住民の生活環境の充実 ▽外国人相談窓口の認知度 (H25)36.4%⇒(H30)50%	2 異文化理解の促進	2	◎		異文化理解講座の充実	相互理解のための講座実施等	○	○
		1 外国人住民の生活支援	3			生活オリエンテーションの充実	転入者向け生活ガイド等の充実		○
			4	◎		相談体制の充実	多言語での生活相談実施等		○
			5			ソーシャルコーディネーターによる支援	同行通訳や関係機関との連携		○
			6	◎		外国人向け災害対策の充実	情報提供や防災活動への参加促進		○
			7			外国人の居場所の充実	国際交流プラザでの交流会等		○
			8			コミュニケーション支援の充実	通訳ボランティア登録派遣等		○
			9			情報手段の充実	多言語ニュースレター等の情報提供		○
		2 情報提供の充実	10	◎	☆	やさしい日本語の普及	手引書の作成、普及のための職員研修等	○	
		3 日本語学習支援	11			外国人児童生徒日本語指導事業	母国語による指導者の派遣		○
			12			日本語学習ボランティア育成事業	日本語ボランティア養成講座の実施等	○	
	3 多文化共生の地域社会づくり ▽日本人と親しく行き来している外国人住民の 割合 (H25)26.4%⇒(H30)30%	1 多文化共生に関する意識啓発	13	◎		多文化共生に関する意識啓発の充実	出前講座等の実施	○	
	4 多文化共生の仕組みづくり ▽外国人住民や留学生との意見交換の実施 回数 (H24)1回⇒(H30)4回	2 地域社会への参加促進	14	◎	☆	地域団体、ボランティア等との連携・支援	地域イベント交流等を全地域へ拡大	○	○
			15	◎		地域事業への参加促進	外国人住民への情報提供等		○
			16	◎		地域リーダーの育成・支援	キーパーソンになる地域リーダーの育成	○	○
		1 外国人住民の意見反映の仕組みづくり	17			外国人住民意識調査の定期的実施	中間年次でのアンケート調査実施		○
			18	◎		外国人住民意見交換会の実施	定期的な意見交換会の実施	○	○
			19			留学生等との意見交換	定期的な意見交換会の実施	○	○
		2 関係機関との連携	20			国県等の関係機関との連携	入国管理局等との連携		○
			21			教育機関との連携	宇都宮大学等との連携		○
II 国際理解・国際交流 のための環境づくり ▽「日本人と積極的に交流 したい」と考える外国人 住民の割合 現状値(H25) 23. 7% ↓ 目標値(H30) 30%	1 国際理解の促進 ▽国際理解講座の開催主催者数 (H24)10団体⇒(H30)20団体	1 国際感覚の醸成	22	◎		国際理解に関する講座の充実	多様な文化や価値観を学ぶ講座等の実施	○	○
	2 国際交流の促進 ▽市内の国際交流活動団体数 (H24)71団体⇒(H30)75団体	2 交流機会の充実	23			国際理解に関する意識啓発の推進	啓発用リーフレット作成等	○	○
		3 国際理解教育の推進	24			イベントの充実	国際理解のためのイベント実施等	○	○
		1 互恵性ある国際交流の促進	25			学校等での国際理解教育の推進	外国人住民の講師派遣等	○	○
			26			姉妹都市との交流	青少年の相互訪問等	○	○
		2 国際交流活動の支援	27			テーマを持った交流の促進	スポーツなど特定のテーマを通じた交流	○	○
			28			ボランティア活動の支援	活動場所や情報の提供	○	
		3 国際交流活動団体の支援	29	◎		海外で活躍する市民との連携	姉妹都市交流事業での活用	○	○
			30			中核団体の支援	市国際交流協会への支援	○	○
		4 民間団体の連携促進	31			民間団体の支援	情報提供や補助金交付	○	○
			32			ボランティア、NPO、NGO等団体のネットワーク形成促進	市国際交流協会を核とした体制構築と情報提供	○	○
III 国際化にふさわしい 都市機能の充実 ▽「宇都宮市が暮らしやす い」と感じる外国人住民 の割合 現状値(H25) 82. 2% ↓ 目標値(H30) 85%	1 都市環境の充実 ▽多言語や「やさしい日本語」を用いた行政情 報・表示の種類 (H24)27種類⇒(H30)45種類	1 分かりやすい情報提供の充実	33			分かりやすいサイン・表記の推進	分かりやすい案内板の表記等	○	○
	2 国際化社会に対応できる人材の育成 ▽国際理解講座の講師数 (H24)32人⇒(H30)50人	2 都市の魅力の発信	34	◎		各種情報の多言語化の推進	各種パンフレット等の多言語化	○	○
			35			善意通訳者団体との連携	外国人観光客への善意通訳の紹介等		○
			36			コンベンションの誘致	観光、ビジネス受入、情報発信等	○	○
		1 国際感覚豊かな人材の発掘・支援	37			海外への情報発信の充実	本市の地域資源や都市の魅力の発信		○
			38			国際経験・語学能力を有する人材の発掘・支援	本市の事業への参加促進	○	○
		2 国際化時代を担う人材の育成	39	◎	☆	国際感覚豊かな人材が活躍できる機会の充実	国際貢献活動などの経験者を講師として活用	○	○
			40			海外への派遣研修の実施	姉妹都市等への派遣研修実施	○	
			41	◎	☆	国際感覚を持ち、世界的な視野で活躍できる人材の育成	多様な文化や価値観を学ぶ講座等の実施(再掲)	○	○
	3 国際協力の推進 ▽市内の国際協力ボランティア団体数(H24)22団体⇒(H30)25団体	1 国際的課題への取組の充実	42			政府系機関・国際機関との連携	自治体国際化協会等との連携		○
		2 国際社会への貢献	43			国際協力団体への支援・協力	情報提供や補助金交付	○	○